

10月5日保育園関係者と組合との面談の概要

出席者

保育園側：坪内部長、元平課長、金竹補佐、伊藤補佐、春日園長、北洞主任

組合側：土岐委員長、椎名書記長、伊藤元委員長

この文書は10月6日に行われた組合と保育所関係者との面談に基づき、伊藤が原案（黒）を作成したものを、春日園長に加筆修正（黒消し線、赤、青色追加）していただいたものです。

1. 年間人件費を増やさずに、年度後半の園児増に対応するためには、年度前半の保育士数を減らすしかない。年度後半だけの雇用であるため、派遣にたよらざるを得ない。（人件費を増やさないという制約のもとでは）~~現状よりもよくなると保育士にも喜んでもらえるはずである。~~現状よりもよくなると考えている。

2. 保育士および園児数の情報（過去、および現状）は、積極的に提供する。それにより、年度前半は園児数に比して保育士が余剰であることを理解してほしい。

3. 民間保育園と岐阜大学の直営保育園の予算を考えた場合、民間保育園の国・自治体からの補助金の方が、大学が直営保育園に出している予算よりも大きいと思われる。~~したがって、大学の保育園は、民間の保育園よりも、より厳しい経営を迫られている。~~したがて、限られた予算の中で最善の運営努力をしている。

4. 今回の雇止めは、1で述べた人件費の効率的利用のためである。人を替えるという意図は全くない。ただし、4月時点の園児数が予測以上になった場合、4月から1年契約で6時間パートを雇う可能性はある。（当然、そのような募集は4月よりも前に行うが、2名の契約を更新しないという決定の変更は行わない。すなわち、2名の契約の不更新と、新規募集が並行して行われることはありえる）

（あくまで今後も含めて可能性があるか無いかの話しをただけであり、結果的に言えば、4月から1年間雇用するとした場合でも、派遣会社に依頼して単年雇用にする可能性の方が圧倒的に高いです。その点は、誤解の無いようにお願いいたします）

5. 組合側が過半数代表メールや組合新聞を用いて発信した岐阜大学保育園の現状については、全くの事実誤認のことが記載されていると保育園側から指摘があった。また、これらの文章を見て多くの保育士が悲しい思いをしていたと保育士主任から報告があった。

6. 組合側の主張に対して保育園側は、そのような事実や意見を多くの保育士や保護者か

ら聞いたことはないので事実と反すると指摘した。これに対し伊藤前委員長は、多くの保育士、多くの利用保護者の意見を聞いた結果に基づいたものである主張した。

7. すこやか保育士から出された要望書に関して、事実と全く違うことが多く記載されていると保育士主任から指摘があった。(詳細略)

8. 今回の保育士からの様々な申し出などに対して組合側は、一切の指示は出していないと報告があった。